薬学部　令和６年度３つのポリシー定期点検会議　議事録

日時：2024 年 7 月 26 日（金）18:00～19:00
場所：薬学部 105 室
出席者：
【学科教員】
学科教授及び自己点検シート執筆教員

【学外評価参画者】
　田尻 耕太郎　一般社団法人群馬県薬剤師会　会長
　原佳津行　一般社団法人 群馬県病院薬剤師会会長

【教育改善委員（学生)】
　５年生　２名
　４年生　１名
　３年生　１名

【配布資料】
・ 令和５年度の３つのポリシー点検会議後の意見等への対応表
・ 薬学科　３つのポリシー全文　R6,R5 比較
・ 事前アンケートの集計結果（教員）（学外評価参画者）（教育改善員）計３部
・ 事前アンケート　コメントからの抜粋
・ 令和５年度自己点検シート一式
基準１（大学　薬学科 理念・目的）
基準２（大学　薬学科　内部質保証）教員のみ
基準４（大学　薬学科 教育課程・学習成果）
基準５（大学　薬学科 学生の受け入れ）
基準６（大学　薬学科 教員・教員組織）
基準７（大学　薬学科 学生支援）
基準８（大学　薬学科 教育研究等環境）
基準９（大学　薬学科　社会貢献・社会連携）
基準１（大学院　薬学専攻　理念・目的）
基準４（大学院　薬学専攻　教育課程・学習成果）
基準５（大学院　薬学専攻　学生の受け入れ）
基準６（大学院　薬学専攻　教員・教員組織）

【司会進行】　平野、常岡

<u>はじめに</u>
寺田学部長より、本会議の概要説明があった。
会議冒頭に、常岡委員より薬学部における PDCA サイクルシステムの説明と３つのポリシー点検会議の趣旨の説明があった。

１　令和５年度の３ポリ会議後の対応表を基にした内部質保証の評価の報告

・　「令和５年度の３つのポリシー点検会議後の意見等への対応表」の資料に沿って説明があり、各項目について、いずれも５段階の４～５の良好な評価であるとの報告があった。

・

２ 薬学科　３つのポリシーR6、主な変更点について

・ 松岡学科長より、「薬学科　３つのポリシー全文　R6,R5 比較」の資料に沿って、変更点について、主に新コアカリに対等するために、DP,CP の文言に修正を加えた等の説明があった。新しい DP の文章に、新コアカリの「プロフェッショナリズム」という文言が無いのでは、との質問があり、「DP の文章に内包されていると解釈できるが、今後も検討していく」との回答がなされた。

３　事前アンケートの集計結果、概要、自己点検評価結果の報告

・ 常岡委員より､「事前アンケートの集計結果(教員)(学外評価参画者)(教育改善員)」および「事前アンケート　コメント」の資料に沿って、以下の説明があった。

【自己点検への評価】いずれも評価者に事前アンケートにおいて５段階での評価を依頼した。

・ 説明文への理解 4-５ポイント　(外部評価委員は大学院に関しては４ポイント)
・ 改善状況について 3-4 ポイント
・ 自己評価 4-5 ポイント

【３つのポリシー点検】ほぼ５ポイント

・ 教育研究上の目的について ほぼ５ポイント（教員のみ４．２ポイント）
・ 教育目標について ほぼ５ポイント
・ 以上より今回の３ポリ会議では３つのポリシー・教育研究上の目的・教育目標について訂正の必要性はなく、適切に設定されていることが判明した。

【20243つのポリシー点検会議　事前アンケート コメントまとめ】

☆ 理念・目的 内部質保証

・（教員２）大学または学部として、大学の理念・目的、各学部･研究科における目的等を実現していくため、中・長期計画は設定しているか？

・ （教員11）就職先の選択肢は本来、多様であることが望ましいと考えますが、DP の文面からは将来の幅広い分野での活躍の可能性が感じ取りにくい
・ （教員12）受験者としては「将来は薬剤師一択」と感じる気がする。もう少し将来の幅を広げるなどの修正を考えていくべき。
・ （教員２）教員・教員組織を作るうえで、学部での分野構成、役割、連携などの方針はあるのか。男女比や年齢構成は適切か。
・ （教員２）内部質保証において、外部評価ではなく、大学や学部が情報の公表をどの程度実施しているか。
・ （教員10）教育研究上の目的について薬学研究者など具体的な文言を入れるべき。
・ （学生３）建学の精神について、満足度調査では80％が認知しているとあるが、実際に理解している人はもっと少ない。在学生においても認知する機会が増えるとよ

い。
- （教員１）カリキュラムポリシー：豊かな人間性と倫理観の養成のため → 豊かな人間性と倫理観を有する医療人を養成するため （理由：「養成」は「人」を育てる場合に用いられるため。）
- まとめ：「将来の幅広い分野での活躍の可能性の提示」「学部での分野構成、役割、連携などの方針」「男女比や年齢構成」「大学や学部が情報の公表」「建学の精神の浸透に関して」中・長期計画を設定すべき。

☆ 教育について
- （学生１）フォローアップテスト・出席確認方法の形骸化
- （学生２）カリキュラムマップが入学時に配られるのみであまり活用されていない
- （学生３）アドバイザー制度の活用が不十分
- （学生１）研究室配属のためのグループ分けが適切に行われていない
- （学生１）大学院について学部生が知る機会がないため、入学時や学期ごとのガイダンスなどで説明があると興味が持てるのではないか。
- まとめ：学生は、既存の制度のより有効な活用の必要性を感じている。

☆ 社会貢献
- （学生１）社会貢献等においても理念目的方針の明示が必要。
- （教員２）大学や学部としての社会貢献の方針はあるのか。
- （教員６）社会貢献の指針の制定を検討してはどうか。
- まとめ：薬学部として、社会貢献の指針の設定を検討したらどうか。

☆学生獲得・入試 （広報関連）
- （外部評価委員１）薬学部のホームページの内容をもう少し充実させた方がよいのではないかと思う。例えば、研究室の紹介、研究成果の紹介、在学生のインタビュー、保護者向けの情報など。
- （学生2）本学では少人数制を強みとしているが、他大学との比較や少人数制である利点を具体的にすべき。
- （学生１）高校性を対象にした模擬授業などを行ったり、夏休みなどに高校へ出向いて薬学部の授業を体験させるなどが良いのではないかと考えた。
- （学生４）地域枠選抜が実際に始まるのはいつごろか目安があるとよいと思う。
- （教員９）ソフト面だけではなくハード面（講義室などの設備やアメニティー環境など）も改善すべき
- （教員13）少子化が進む一方であるが、薬学部、大学院ともに進学を希望する学生を確保できるような活動を外に向けて行う。
- （学生４）早期体験学習の内容を簡単に明示したほうが入学者がわかりやすいと思った。
- （教員１）薬学部の受験生を増やすために、幼児～中高生の、薬剤師や薬学部に対する認知度を高める
- （教員６）英語の募集要項やシラバス作成、秋入学の導入は評価
- （教員10）学内から大学院への進学者を増やすため、授業料免除や進学支援制度の

拡充

- まとめ：社会に対して薬学部をより知ってもらう努力が必用ではないか。そのため、「ホームページの内容の充実」・「少人数制を強みの発信」「薬学部による体験授業の充実」「地域枠選抜のPR」「早期体験学習の内容のPR」「幼児～中高生のへの薬学のPR」等があげられる。
- まとめ：「講義室などの設備やアメニティー環境など）の改善」
- まとめ：大学院に関しても、進学を希望する学生を確保できるような活動をおこなう。学内から大学院への進学者を増やすため、授業料免除や進学支援制度の拡充が望まれる。

☆ その他 全般に関してのコメント欄

- （学生２）過去との比較がないため、1 年間で改善したかどうかの比較が難しい。昨年の自己評価を合わせて掲載するのはどうか。
- （学生２）駐車場の側溝に落ちた人がいるため、塞いでほしい。

以上の説明後、以下のような発言があった。

（田尻委員）

大学入試地域枠制度の開設についての本学の現状を説明していただきたい。

回答；地域枠選抜は、来年度の入試から開始される。群馬県および近隣の長野、山形県など薬学部の無い県の学生を対象に実施予定である。

（原委員）

学生獲得のために、志望校選びの際に、貴学のホームページは少し地味である、もう少し充実させてほしい。例えば、大学紹介の冊子をホームページに載せてはどうか。また、保護者が、子の成績情報等を外部からアクセスして閲覧できたり、教員に連絡できたりできるようにするとよいのでは。

（学生委員）　学生大会などの集会などで出た意見や、各種のアンケート結果などの情報を、３つのポリシー点検会議でもとりあげていただけるとよい（対面の意見交換会よりもアンケート形式のほうが意見を出しやすい）。

４ その他

- 昨年の３つのポリシー点検会議にて、寺田学部長より、「一定の書式を用いた薬学部 PDCA サイクルの具体的実施案」が示された。昨年度より、薬学部研究年報の中に、薬学部各委員会の活動報告書が収載されることとなったため、こちらへの記載を、PDCA サイクルの実施のメインルートにしたい、との説明があった。PDCA サイクルの具体的実施については薬学部研究年報により確認できることとする。
- 本年度は、薬学教育評価機構の審査対象年度である。近々、薬学部自己点検報告書の分担執筆を担当の先生方に依頼する予定であると説明があった。

おわりに　　松岡　学科長より、本会議の総括が行われた。